

第二高校では、  
生徒一人ひとりを大切に  
計画的な進路指導を行っています。  
普通科、理数科、美術科の三科が  
それぞれ特徴のあるカリキュラムを準備し、  
進路希望の実現を目指します。

進路選択とは自分の生き方を自分で決定することであり、より良い出会いと目標実現に向け、地道な取り組みが不可欠です。本校伝統の「早期学習」やSSHの取り組み、学校行事や部活動への積極的な参加など、第二高校独特の学校生活全体を通して、自分自身で思考し、課題を見つけ、解決するという基礎的な能力が身につきます。

さらに、総合的な学習の時間を活用して、「進路研究」「小論文」「テーマ研究」に取り組んでいます。

そのような取り組みの結果、学ぶことと働くことを関連付けながら、自己の生き方を自ら考える生徒が育ち、自分自身も進路希望の実現に向け、最後まで高いモチベーションをもって学習に取り組んでいます。

- ★進路研究 | 自らの適性を見極め、多様な学問分野を調査する。
- ★小論文 | 情報収集力、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を身につける。
- ★テーマ研究 | それぞれが独自に課題を設定し、科学的に探究する能力の基礎を身につける。



平成30年度  
大学入試の特徴

- 国公立大学合格者281人（現役257人、既卒24人）と本年も高い水準で合格者が推移しています。熊本地震の影響が残る中、生徒一人ひとりが最後まで高いモチベーションを持って受験に臨んでくれました。特に熊本大学については、現役のみで71人が合格し、県内外を通じて最多の合格者を輩出することができました。
- 理数科、美術科では推薦入試やAO入試を積極的に活用して合格している生徒が増加しています。3年間の学生生活は、大学入試においても非常に高く評価されています。
- 難関私立大学にも積極的にチャレンジし、多数の合格者を輩出しました。



各学年での達成目標

- [1年] 二高生になる**
1. 規則正しい生活習慣を確立する。
  2. 授業や早朝学習に積極的に参加する。（質問する・発表する）
  3. 高校生としての学習習慣を身に付け、定期試験で結果を出す。
  4. 部活動、生徒会活動、学校行事等、学習以外の分野で打ち込めるものを見つける。
  5. 目標に向かって協力できるクラスや学年の雰囲気を作る。
- [2年] 二高を支える**
1. 自分自身の進路目標を明確にする。
  2. 質問力を育成する。（課題意識と向上心を持つ）
  3. 進路目標を意識した学習への取り組みを進める。
  4. 中核学年としての自覚を持ち、部活動、生徒会、学校行事を支える。
  5. 目標に向かって協力できるクラスや学年の雰囲気を作る。
- [3年] 歴史を創り後輩に託す**
1. 受験に対応できる意識の高さと主体的な姿勢を身に付ける。（自ら考える・行動する）
  2. 個性や強みを活かしたアウトプットを積極的に行う。
  3. 進路目標を意識した学習への取り組みを進める。（個別学力試験を意識した学習の深化）
  4. 最上級生としての自覚を持ち、部活動、生徒会、学校行事で3年間の成果を残す。
  5. 目標に向かって協力できるクラスや学年、学校の雰囲気を作る。

今年度の合格情報

種別	卒業年度			主な大学
	現役	卒	計	
国立大学	182	21	203	東北大学(2)、筑波大学(4)、千葉大学(3)、東京藝術大学(2)、横浜国立大学(2)、神戸大学(1)、広島大学(7)、九州大学(11)、熊本大学(76)、鹿児島大学(22)
公立大学	75	3	78	横浜市立大学(1)、神戸市立外国語大学(2)、大阪市立大学(1)、福岡県立大学(1)、北九州市立大学(2)、熊本県立大学(49)
私立大学	327	67	394	早稲田大学(2)、東京理科大学(3)、明治大学(2)、中央大学(1)、法政大学(1)、同志社大学(4)、立命館大学(17)、西南学院大学(62)
準大学		4		
短期大学		2		
看護学校		5		
各種学校		9		
海外大学		1		

MESSAGE ~卒業生から、これから入学する君たちへ~

失敗を恐れず自分を磨き続ける

もりやま よしろう  
サッカーU16日本代表監督 森山 佳郎

私は第二高校を卒業し大学を経て、10年間プロサッカー選手（Jリーガー）として活動し、引退後はプロのコーチとして育成年代の指導を続け20年を迎えます。第二高校在学中にはプロ競技の道に進みたいという目標があったわけではありませんが、指導者がいない中、いかにして競技力を上げチーム力を上げることが出来るかという難題を、自分たちで試行錯誤・悪戦苦闘し日々向上心を持ちながら過ごしていました。考えてみれば、あの当時第二高校の三綱領のなかにある自主積極という精神が自分の中に今も血液のように存在していて、そのお陰もありこれまでの人生の様々な局面で失敗を恐れずチャレンジし続けたことが今の自分を創っていると感じています。

現在、16歳以下の日本代表の選手たちの指導に動していますが、伸びていく選手に共通する要素が達成意欲と主体性です。選手たちには自分という選手を成長させるプロデューサーになれと要求しています。自分が宝石の原石ではなく、そこらへんに転がっている河原の石ころだとしても、いいわけや人のせいにならずに磨き続ければキラキラ光る石に変わることが出来ます。コーチは磨くための道具や磨き方をアドバイス出来ても、実際に本人が強い意志を持って磨き続けることが出来なければ高いレベルに到達することはありません。生徒の皆さんには是非5年後10年後の力ある魅力あふれる人間に成長するため、日々を大切に過ごし自分磨きを続けて欲しいですね。



Profile

熊本市出身。筑波大学を経て、1991年マツダに入社し、マツダサッカークラブ（現サンフレッチェ広島）でプレーし、1994年日本代表選手として選出。その後、横浜フリューゲルス、ジュビロ磐田、ベルマーレ平塚でプレーし、1999年現役引退。サンフレッチェ広島ユースコーチ・監督を経て、2015年U-15日本代表監督就任、現在に至る。

感動することの大切さ

ゆのうえ さとし  
熊本バスケットボール株式会社 代表取締役社長 湯之上 聡

高校時代は、バスケットボールに熱中していました。朝の6時半には学校に行き、朝自習の時間まで練習する。昼休みも練習。夕方も練習。休みは、年末の2日間だけ。元旦から練習していました。

その部活動で学んだことは、「感謝することの大切さ」でした。恩師は、練習中、練習後、必ずこの言葉を発せられました。「あなたたちは、なぜバスケットボールができるのか？」

答えは、「お父さん、お母さん、周りの方々、多くの方々の協力、支援があつてからこそなのでしょう。感謝しなさい」と。

常に感謝の想いを持ち、行動することによって、結果はついてくると教えていただきました。このことは、現在の私の活動に大きく影響を与えてくれています。「出逢いに感謝」は、私の生きる軸となっています。

人との出逢いだけでなく、出来事との出逢い。すべての出逢いに感謝する。いいことも、あまり良くないことも、捉え次第で、私自身、その後の行動、結果は変わって来ると思っています。だからこそ今、目の前のことに感謝しながら生きていきたいと思っています。高校時代の恩師の「感謝することの大切さ」のバスケットボールを通して、教えていただいたおかげで、今の私があると思っています。

現在は、「熊本ヴォルターズ」の運営会社、熊本バスケットボール株式会社の代表取締役社長として、熊本や九州全域に関わるすべての方々と共に創るエネルギーをお届けしていき、子どもたちの夢を育み、感動を創り、人のつながりを創っていく活動を続けています。

可能性に満ち溢れた皆様のご活躍を祈念しています！



Profile

熊本市出身。福岡大学を経て、県内の中学校や高校にて講師を務める。2007年米国バシフィックユニバーシティ留学。2008年、「熊本にプロバスケットボールチームをみんなで作ろう会」を発足。2012年熊本バスケットボール株式会社を設立。現在に至る。